

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成24年3月1日(2012.3.1)

【公開番号】特開2010-169541(P2010-169541A)

【公開日】平成22年8月5日(2010.8.5)

【年通号数】公開・登録公報2010-031

【出願番号】特願2009-12454(P2009-12454)

【国際特許分類】

G 01 N 21/35 (2006.01)

【F I】

G 01 N 21/35 Z

【手続補正書】

【提出日】平成24年1月12日(2012.1.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0021】

測定部101の説明をする。発生部108は、テラヘルツ波パルスを発生する部分である。発生部108でのテラヘルツ波発生方法には、瞬時電流を利用する手法や、キャリヤのバンド間遷移を利用する手法がある。瞬時電流を利用する手法としては、鏡面研磨した半導体や有機結晶の表面にレーザ光を照射してテラヘルツ波を発生する手法や、半導体薄膜上に金属電極でアンテナパターンを形成した光伝導素子に電界を印加して印加部にレーザ光を照射する方法が適用できる。また、PINダイオードが適用できる。利得構造を利用する手法としては、半導体量子井戸構造を用いる手法が適用できる。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0023

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0023】

発生部108と検出部109は、レーザ源107から出力される超短パルスレーザによってキャリヤが励起されることで動作する。図1のように、超短パルスレーザは、ビームスプリッタ111によってL1とL2の二つの光路に分岐される。光路L1を通る超短パルスレーザは、遅延光学部110を介して発生部108に入力する。光路L2を通る超短パルスレーザは、検出部109に入力する。